

OECDエコノミック・アウトルック 104 概要

「成長はピークを越えた：ソフトランディングを設計する上での課題」

平成 30 年 11 月

OECD 代表部

11 月 21 日に OECD 事務局より公表された OECD エコノミック・アウトルック 104 の概要は以下の通り。

主要国・地域の実質 GDP 成長率見通し

	2017 年 (実績)	2018 年	2019 年	2020 年
日 本	1.7%	0.9% (1.2)	1.0% (1.2)	0.7%
米 国	2.2%	2.9% (2.9)	2.7% (2.7)	2.1%
ユーロ圏	2.5%	1.9% (2.0)	1.8% (1.9)	1.6%
中 国	6.9%	6.6% (6.7)	6.3% (6.4)	6.0%
世 界	3.6%	3.7% (3.7)	3.5% (3.7)	3.5%

注：() 内は前回の経済見通し (中間経済見通し (9 月 20 日)) の計数

(世界経済)

- ・世界経済の拡大はピークを越えた。世界の GDP 成長率は 2018 年の 3.7% から徐々に低下し、2019 年及び 2020 年は 3% 前後になると予測される。
- ・下方リスクが現実のものとなれば、結果はさらに弱いものとなり得る。米国と中国の二国間貿易における障壁の更なる引上げは、両国の生産に影響を与え、世界経済の成長と貿易にも悪影響を与えるだろう。原油市場の混乱は物価に上昇圧力を加え、先進国における更なる政策金利の引上げ等は新興国への金融市場からの圧力を高め得る。多くの国で資産価格上昇と高債務水準に伴う脆弱性は続いている。
- ・主要な下方リスクの相互作用により、2020 年までに世界経済の成長率が予測より 0.5% ポイント以上下押しされる可能性がある。各国間での協調的な政策措置が最も効果的な対抗策となろう。

(日本経済)

- ・過去最高の企業収益と労働力不足が設備投資をけん引する中、経済成長は 2018-19 年に 1% 程度になると見通される。加えて、より力強い賃金上昇が 2019 年の消費の増加を支えるであろう。2019 年 10 月の消費税引上げは一時的に需要を減少させるものの、追加的な政府支出と 2020 年東京オリンピック競技大会の浮揚効果により、2020 年前半には成長の再開が見込まれる。
- ・政府債務対 GDP 比は OECD 加盟国中で過去最高の水準に達しており、深刻なリスクを突き付けている。財政の持続可能性を確保するためには、2019 年に予定されている引上げに続く漸進的な消費税率の引上げと、急速な人口高齢化に直面する中での歳出抑制策を含む詳細な財政健全化計画が必要である。

(米国経済)

- ・マクロ経済政策による景気の下支えが弱まる中、成長は今後2年の間に減速すると見通される。雇用の伸びが減速する一方、労働市場が一層逼迫する中、賃金の伸びに支えられ、消費の伸びは堅調さを維持する。近年の税制改革や支援的な金融環境が2019年及び2020年の力強い設備投資を下支えする。世界経済見通しの弱まりや、これまでに導入された貿易措置が経済活動の重石となる。

(ユーロ圏経済)

- ・経済成長は緩やかになり、2020年には1%台半ばをわずかに上回る程度となる。緩和的な金融政策と、ある程度の財政拡大は、民間消費を中心とした国内需要や雇用を下支えするだろう。資金調達環境は引き続き良好であり、生産能力拡大の必要があることから、設備投資はますますの強さを維持するであろう。

(中国経済)

- ・成長率は2018年途中まで持ちこたえていたが、このところ弱まっており、2019年から2020年にかけて低下していくと見通される。鉱工業生産や企業収益・収入の弱まりにも景気減速の兆候がみられる。貿易摩擦の高まりに伴い貿易もやや勢いを失うであろう。

(賃金の生産性からのデカップリング(かい離)について)

- ・いくつかのOECD諸国は、低生産性上昇に対して取り組んできたが、労働分配率の低下により、生産性上昇率に対する平均賃金上昇率の相対的な減速も経験している。また、中位所得者の賃金は、平均賃金に比べて上昇が遅れており、賃金格差の拡大につながっている。この結果、中位所得者の賃金上昇率の生産性上昇率からのデカップリングが生じている。
- ・技術進歩とグローバルバリューチェーンの拡大がデカップリングに寄与。デカップリングが生じている国では、労働分配率が低い技術的に最先端にいる企業が他の企業を引き離している。
- ・公共政策等は生産性と賃金の関係の重要な決定要因であり、技能への投資や積極的労働政策が有用。競争促進的政策は賃金上昇につながるが、賃金格差の拡大をもたらさう。最低賃金の引上げや労働者保護強化は賃金格差に効果があるものの、資本への代替を引き起こすリスクもある。

(以上)